



「ななつ星in九州」をはじめ、JR九州の列車の多くは、水戸岡鋭治氏がデザイン

DXスイートの客室は、新しいのにどこか懐かしさを感じるデザイン。障子回りは吉野杉を使用

## 列車で「木づかい」

# 人気のクルーズトレイン「ななつ星in九州」は、車内に木材をふんだんに使用。客室はもちろんシャワー室も、木の香り漂う癒し空間に！

九州旅客鉄道株式会社  
福岡県福岡市

今、九州旅客鉄道(JR九州)のユニークな列車が全国から注目を集めています。平成14年「ゆふいんの森」のリニューアルで本格的に木材が使われて以来、木をふんだんに使用した観光列車が続々と登場しているのです。

その代表格ともいえるのが、平成25年秋から注目を開始したクルーズトレイン「ななつ星in九州」。全7両の客室では壁や床、天井に木材を使用した、客室ごとに異なる種類の木の風合いも楽しむことができます。「シャワー室にはヒノキが使われていて、香りだけでなく癒やされるとお客様には好評です」と語るのは、JR九州鉄道事業本部運輸部の松尾英典さん。

松尾さんによれば、車両の設計製作における一番の課題はやはり耐火性だったといいます。「鉄道車両の防火基準は非常に厳しいため、いろいろな手法を施し燃焼試験をクリアしています」。個性的な列車という意味では、宮崎県・日南線の特急「海幸山幸」も使われています。古くは造船にも使われたほど耐火性に優れた地元産の欒杉を内装はもろろん、外装にまで採用。風流になり目模様の車両は土地の名物になりました。「公共性の高い鉄道デザインには、温かみを感じる木材がマッチしていると思います」と松尾さん。

JR九州では、こうした観光列車だけでなく在来線の通勤電車などにも積極的に木材を使用し、観光客だけでなく沿線住民にも親しまれる存在となつていきました。



床やベンチなどに地元のスギをふんだんに使用

熊本駅と宮地駅を往復する特急「あそぼーい！」



木のボールを敷き詰めた「木のプール」



宮崎駅と南郷駅を往復する特急「海幸山幸 (UMISACHI YAMASACHI)」

「木のおもちゃのようなゾート列車」をコンセプトにした列車内



主要構造は鉄骨ながらも、随所に木材を使用した東分署のエントランス



「木の香りや風合いに、地域住民や署員が癒やされてくれば」と小林さん



箕置農家の「越し屋根」をイメージ



木造2階建ての北分署。主要構造部の柱および梁には集成材や耐火性を強化

## 公共建築で「木づかい」

# 消防署なのに木造!? 集成材を使って耐火性を強化しつつ住民の親しみやすさもグンとアップ!

秩父消防署東分署北分署  
(埼玉県秩父郡横瀬町皆野町)

豊かな自然に恵まれた埼玉県秩父地方。1市4町を管轄する秩父消防本部では、各分署の統廃合に伴い、東・北・南分署の新庁舎で木材を全面的に利用しています。消防署なのに木造。この意外性あふれるアイデアが生まれたのは、平成22年10月から実施された「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」がきっかけでした。

当初は鉄骨で建築する予定でしたが、かねてより林業が盛んな土地ということもあり地元産の木材を利用した設計案を採用することにしました。

平成23年に完成した東分署は、主に秩父産のスギとヒノキを使用。特に吹き抜けのエントランス部分は木材の優しい香りと十分な採光で、明るく開放的な空間になっています。

一方、平成24年完成の北分署は車庫を除いてすべて木造。柱や梁の接合には、耐火性に優れた下

リフトピン工法を採用しています。また、秩父は古くから養蚕が盛んであったことから、その農家の家と思わせる「越し屋根」を設け、真夏でも天窓を開ければ涼しい風が吹き抜ける構造になっています。

「木材は耐火性の強い集成材を使用。署内は完全禁煙で、キッチンでもIH調理器を使って防火対策を徹底しています」と小林さんは話します。

## 2度の震災にも耐え抜いた木造庁舎 現地対策本部として、地元の防災の要に!

栗原市栗駒総合支所  
(宮城県栗原市)

「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」の制定前より、地域の木材活用に取り込んでいた自治体もあります。宮城県栗原市もその1つ。平成17年に完成した栗駒総合支所は、地元産のスギなどを使う木造の建物です。平成20年の岩手・宮城県内陸地に続き、平成23年の東日本大震災と2度の震度6弱の大きな揺れにも耐え抜きました。震災後は、現地対策本部として、救援支援活動の拠点となりました。



名峰・栗駒山の山並みを切らないフォルムで、緑豊かな景色と調和するよう設計

構造面では、梁や柱を全員で接続するKES構法を採用

## 針葉樹を独自の技術で加工! オフィスに洗練された“森” をつくってみませんか?

オフィス  
家具

株式会社 イトーキ (大阪府大阪市)

イトーキでは、日本の森林の大半を占めながら家具に向かないといわれる“針葉樹”を独自の技術で実用化。国産材のよさを生かした、デザイン性の高いオフィス向け家具を販売しています。椅子やテーブルだけでなく、木質内装システムなどもあり、オフィスが木の優しい、あたたかみを感じる空間に!

<http://www.itoki.jp/>



**saltus (サルタス)**  
saltusはラテン語で「森」という意味。内装工事不要の施工型木質内装システム  
撮影/遠川 敏

**Passaggiata (パスセギアタ)**  
木のやわらかな曲線を生かした、どこか美しいデザイン性の家具。温かみのある空間が生まれる



※価格については、下記までお問い合わせください。  
イトーキ お客様相談センター フリーダイヤル: 0120-164177

## 赤ちゃんが口に入れても 安心の植物オイル仕上げ お風呂で遊んだって平気だよ

職人の手作り  
おもちゃ

ストローファーム (高知県安芸市)

ストローファームは高知県安芸市にある小さな工房。県内産材を使用した、子どもの小さな手に優しくなじむおもちゃを、職人が手作りにしています。年齢や性別ごとに、おもちゃの種類が豊富に揃っています。植物オイル(亜麻仁油)で塗装するなど、赤ちゃんが口に入れても安心!

<http://www.strawfarm.com/>

クジラさんにカメさん  
仲良く遊んでね



**おふろでちゃぶちやぶ**  
5,400円 (送料別)  
水に強いヒノキを使った、お風呂で遊ぶおもちゃ。ヒノキの香りも楽しめる (対象年齢1~6歳)



**非草ごとセット**  
23,760円 (送料別)  
ヒノキやスギ、サクラなどの樹種に草木染めフェルトを使った、食べ物や調理道具のセット (対象年齢2~8歳)

※このページで紹介した商品の価格は、すべて税込みです。

## 東濃檜、紀州檜、木曾檜…… 四季を知る国産木材を使った 匠の家具がズラリ!

家具

株式会社 ディノス・セシール (東京都中央区)

株式会社ディノス・セシールでは、各種メディアを通じた通信販売事業の中で、国産材家具を幅広く販売しています。木材は、東濃檜や紀州檜、ミズナラなど国産材を厳選し、日本の美しい森林を守るため、できるだけ国産材を使用。国産天然木材ならではの香りや素材感が味わえる家具が数多く揃っています。

<http://www.dinos.co.jp/>



**東濃檜 高さ調節するこベッド**  
33,840円 ~ 46,182円  
飛脚の職人がつくる、総檜天然木ベッド。角が丸い優しいつくりで高さの調整が可能。すのこ床板下に置く紀州の竹炭付きも

国産杉頑丈突っ張り  
ラックシリーズ  
34,868円 ~ 47,212円  
丈夫な国産杉(2か所)を使ったラック。突っ張り式で床から天井まで、壁一面を有効的に使える



## 木の曲線を生かした “角丸”フォルム さりげない彩色もおしゃれ!

デザイナーズ  
おもちゃ

酒井産業株式会社 (長野県鳳凰市)

木工メーカーの酒井産業株式会社は、子ども向けの木製品や木製玩具、著作キットなどの「木育教材」を開発してきた経験を生かして、高品質の木のおもちゃ「buchi」を製品化。デザインを手がけたのはプロダクトデザイナーの柴田文江氏。彩色をほどこした「ふち」を特徴に、職人が手仕事で仕上げた、大人も楽しめるおもちゃです。

<http://www.kiso-sakai.com/>

<http://www.buchi.co.jp/>



**ドミノ (32ピース)**  
5,184円 (送料別)  
ミスキを使った、手触りのよいドミノ。並べて倒せば、木の音色も楽しめる

**パズル**  
7,344円 (送料別)  
指先でカエデの木の感触を楽しみながら、積み木のように遊ぶパズル。7段で1セット

南東に面したリビング。テーブルは自作。CDラックや本棚も木製自作



すこく  
落ち着くね~



右) 廊下の梁型を隠すように設置された本棚  
左) リビングに面した和室。縁に腰掛けることもでき、床下は収納スペースとして活用



勉強も  
はかどるよ!



右) リビングの一角に、木製のカウンターを配し、子どもたちの勉強机に。対面式に改良したキッチン。流しやカウンターの引出しも木でつくり込んでいる

天羽太郎さん(中央)は澤さん(左)と温さん(右)と妻の雅代さんの4人家族。「ステキな家だっって写真を撮ってくださいます」と温さん

内装をほとんど  
“木づかい”

## 床はもちろん、洗面所、キッチン、引き出し、本棚、 CDラックまで木質化! 木の香りに包まれ、まるで、森林浴気分……

3年前に神奈川県藤原町のマンションを購入した天羽太郎さん一家。築36年の建物の内装を入居前にフルリノベーションしました。室内をコンクリートむき出しの状態まで解体し、間取りも風通しをよくするよう変更。内装材に活用したのは無垢材をはじめとする自然素材です。

「床には奈良県の吉野杉の無垢材を使っていました。スギには蒸熱材を湿気を放散させるすぐれた性質があることで、冬でも床が冷たくならないし、雨の日でもベタツキしない。足触りの気持ちよさが特徴です。だからわが家では素足で過ごすのがおすすめですよ」  
改装を手がけたのは天羽さんが勤める工務店「西北村建築工房」。自然素材を最大限に生かした「木成りの家」を提案しており、注文住宅を請け負っています。  
これまで何棟も「木成りの家」づくりに関わってきた天羽さんですが、つねに「一つ一つの個で『使う個』ではありませぬでした。実際の住み心地はどうなのか、それを体感するのにも自宅をリフォームした理由の1つだと語ります。

株式会社西北村建築工房 (神奈川県横浜須賀野市)